

さんじょう

三条地区 (第二期)

(新潟県三条市)

- 計画期間 平成22年度～平成26年度
- 面積 1,340ha
- 交付対象事業費 4,429.3百万円
- 市人口 98,791人

ポイント

平成16年7.13水害からの創造的復興

地区概要

近年頻発するゲリラ豪雨による浸水被害を軽減するため、排水路改良等を行い、安心安全の向上を図る。また、信濃川・五十嵐川の河川敷等を利用し、公園広場の整備を行い、市街地における「まちあるき」のできる快適な回遊性の確保を図る。

目標

- ① 中心市街地における回遊性の向上
- ② 市街地における浸水被害の軽減
- ③ 交流拠点の強化

指標

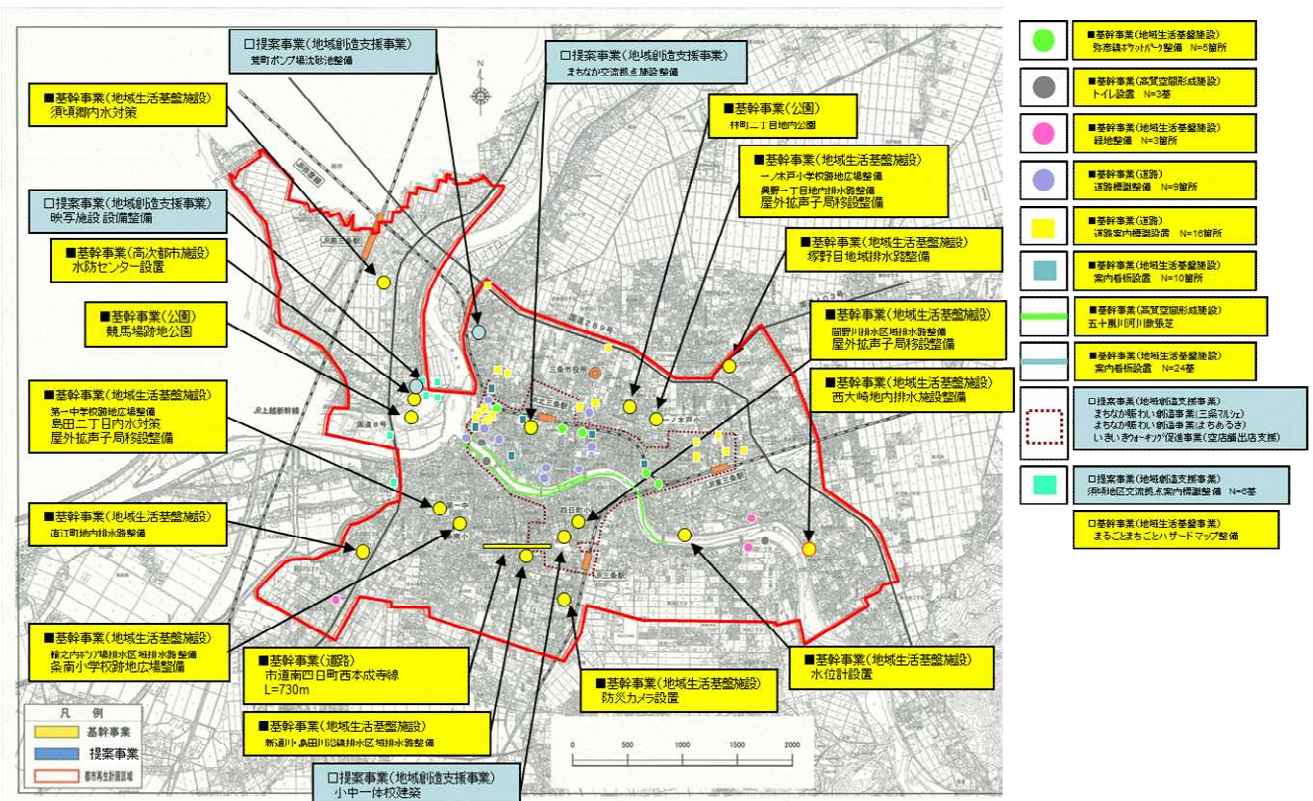
排水路改良等による浸水区域の減少、河川敷等の整備による広場等利用者数の増加を指標とした。

| | | | |
|-----------------|---------------|---|---------------|
| 中心市街地の自転車・歩行者数 | 2,583人 (H21) | → | 2,600人 (H26) |
| 市街地における浸水予想区域面積 | 75.3ha (H21) | → | 10.6ha (H26) |
| 広場等利用者数 | 11,000人 (H21) | → | 16,000人 (H26) |

事業内容

基幹事業 (3,240.1百万円) → 排水路改良(2,189m)、歩道改良(730m)、避難空間整備(30,000㎡)、公園整備(61,200㎡)、地域交流センター整備(412㎡)、トイレ設置(3箇所)、ポケットパーク整備(5箇所)

提案事業 (1,189.2百万円) → ポンプ場沈砂池整備(1箇所)、まちなかにぎわい創造事業、映写施設設備整備、小中一体校整備(10,542㎡)、まちなか交流拠点施設整備



地区の現況と課題

現況

平成16年7月13日の新潟福島豪雨災害から5年が経過し、五十嵐川の復旧は一応の完成をみたところである。しかし、近年では内水による浸水被害がいたる所で頻発している。また、信濃川と五十嵐川の合流点にある中心市街地では大手スーパーが撤退するなど厳しい状況にある。平成21年トキめき新潟国体の馬術会場であった信濃川河川敷を拠点とした「かわまちづくり計画」では、地域の魅力発信の強化に向けて「連携」をキーワードに取組を進めている。

課題

公共下水道雨水整備の進捗が遅れているため、市内各所で浸水被害が発生している。近年頻発するいわゆるゲリラ豪雨により、被害がますます深刻化しており、緊急的な浸水被害の軽減が求められている。

また、空き店舗の増加や居住人口の減少など市街地の空洞化が進んでおり、これからの人口減少社会に対応したコンパクトで、個性と賑わいのある生活空間の創造が中心市街地に求められている。五十嵐川の復旧により生まれた河川空間とそこに隣接する歴史ある市街地とを一体として捉えたなかで、快適な回遊性を確保し、「まちあるき」のできる空間が求められている。

さらに、これまで五十嵐川河川敷で行われていた凧合戦などのイベントを、災害以降は信濃川河川敷の競馬場跡地で行っており、三条・燕総合グラウンドとの一体的な利用の中で、交流拠点としての強化が求められている。

計画策定プロセス

五十嵐川に関する検討会

五十嵐川改修に当たり、計画段階から住民の意見を取り込む必要があるため、検討会が開催された。本検討会では五十嵐川の利用に関する提案と橋梁のデザイン（高欄・照明など）に関する提案が行われた。

その後の検討では、ゾーン毎の具体的な利用計画と望ましい維持管理のあり方について提案が行われた。

五十嵐川と街並み景観を考える会

都市的な景観の視点から、地域の特性を十分に活かし、市街地における良好な景観の保全と創出を図るため、改修後の五十嵐川の景観と市街地景観の調和について検討するとともに、市街地の魅力ある街並みなどの調査等を行い、景観づくりのための基本的な考え方や実現化に向けた具体的施策の検討が行われた。



復旧した五十嵐川



信濃川河川敷・旧三条競馬場のトキめき新潟国体馬術競技



市民植栽による五十嵐川堤防法面のシバザクラ



市民参加によるJR弥彦線高架下ポケットパーク整備